



廣田 琥亜 (ひろた こあ) 別所小 2 年生

作品名:ひろしまのピカ

図 書:ひろしまのピカ

ぼくは、ひろしまのピカを読んで、せんそうは、ぜったいにしては、いけないことだと思いました。

へいわだったひろしまに、アメリカが入るいはじめてのげんしばくだんをおとしました。ばくだんは、たった一つだったのに、数えきれない人がしんでしまったのです。

大せつな、かぞくをなくしてしまった人がたくさんいたのです。

どうして、日本とアメリカは、せんそうをしてしまったのか、かなしくなってしまういました。

この本に出てきた、みいちゃんと言う女の子は、ぼくとおなじ七さいです。いつものようにお父さんとお母さんと朝ごはんをたべている時に、アメリカのB二十九エノラ・ゲイごうから、リトルボーイと言う名前のげんしばくだんがおとされました。

ひろしまの町は、あっと言う間に火じになって、みいちゃんのお父さんのからだには、七つものあながあいてしまいました。みいちゃんのあたまにも、ばくだんがおちた時のつよいかぜのせいで、ガラスのはへんがささりました。みいちゃんのお母さんは、けがをしていたお父さんをおんぶして、みいちゃんをつれて、火じからにげました。にげているとちゅうの川には、やけどをしてボロボロになっている人や、ひふがとけて、しんでしまった人がいたと書いてあります。そしてさいごには、みいちゃんのお父さんもげんばくのせいで、しんでしまいました。もしも、ぼくが、みいちゃんだったら、こわくて、いたくて、かなしくて、ずっとないていたと思います。

たくさんの方がしんでしまうせんそうは、ぜったいにやってはいけないことだと思いました。なぜなら、大せつな人のいのちをうばうだけで、こわい気もちやかなしい気もちしか生まれないからです。

ぼくは、せんそうのないへいわなよの中にするために、いっぱいべんきょうして、
たくさんの人たちのために、やくにたつことができる大人になりたいと思いました。